

生育診断ほ調査結果と今後の管理

令和8(2026)年6月10日

那須農業振興事務所

- **茎数を確認し、間断かん水を開始しましょう**
- **向こう1か月は高温の予報→病気・害虫の多発に注意!**
- 管内北部：前年より生育量はやや少ない
- 管内南部：前年より生育は旺盛(間断かん水開始)

1 現在の生育状況

水稻生育診断ほ調査結果(調査日：6/8、品種：コシヒカリ、施肥：全量基肥)

調査地点	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢	葉色 (葉色板)	生育診断値 (葉色×茎数)
北部 (那須町寺子丙)	5/10	29.0	213	6.2	3.9	826
		91%	87%	-1.1	+0.5	89%
南部 (那須塩原市一区町)	5/2	43.3	556	8.8	4.4	2,435
		114%	119%	+0.8	-0.1	107%

※下段は前年比及び前年差

栽植密度は、北部：20.0株/m²、南部：18.2株/m²

- ・草丈：前年と比べて北部はやや短く、南部は長い
- ・茎数：前年と比べて北部は少なく、南部は多い
- ・葉齢：北部は前年-1.1枚、南部は前年+0.8枚
- ・葉色：北部は前年+0.5、南部は前年-0.1

2 今後の管理

・間断かん水

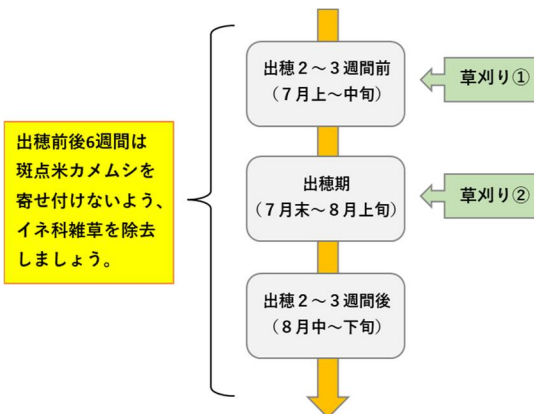
現在の生育状況から、管内南部ではすでに間断かん水開始のタイミングを迎えたほ場も見られます。1株あたりの茎数(目安：15~20本/株→栽植密度が20株/m²の場合は370~420本/m²)を確認し、間断かん水を開始しましょう。

間断かん水を行うと、無駄な分げつ発生が抑制されて茎が太くなるため、倒伏防止に有効です。

・畦畔の草刈り

斑点米カメムシ被害防止のために、畦畔の草刈りは、①出穂期2~3週間前、②出穂期頃の、計2回行いましょう。

畦畔の雑草は、斑点米カメムシが本田内へ侵入するための中継地点になります。そのため、きちんと除草を行うことで、斑点米カメムシをほ場に近づけない効果が期待できます。



畦畔の草刈りのタイミング

・いもち病対策

6/4に県農業総合研究センターから発表された、「BLASTAMによる葉いもち感染好適条件判定結果」では、那須、黒磯、大田原における感染好適条件は見られませんでした。

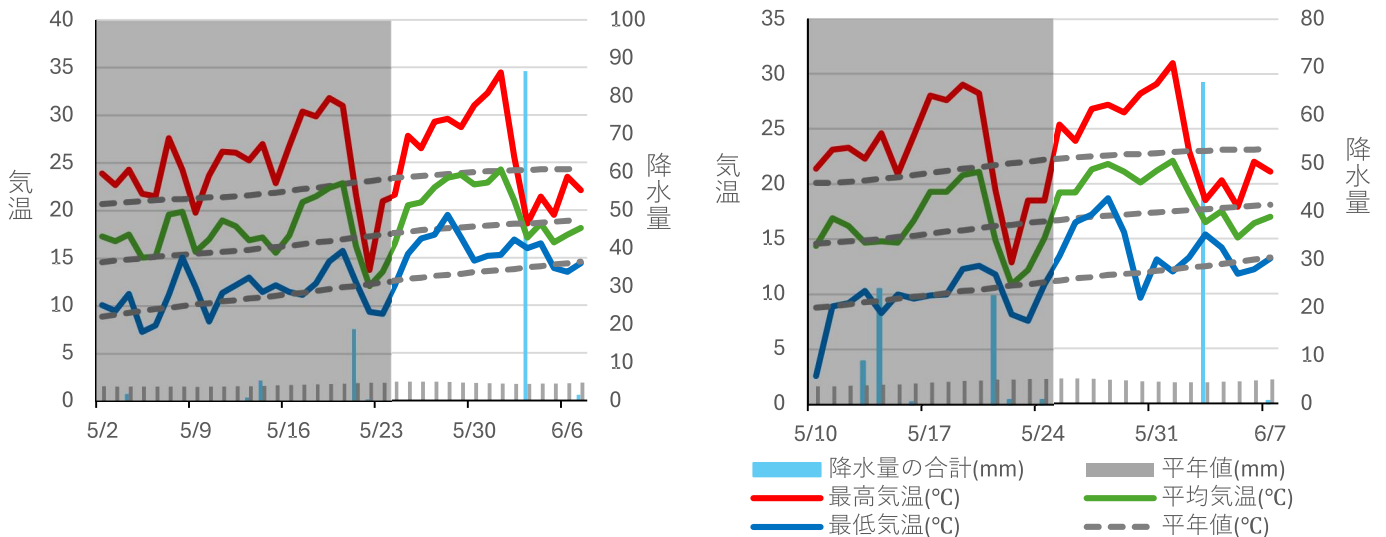
しかし、関東甲信越地方は6/7頃に梅雨入りし、今後は感染の拡大が懸念されます。ほ場をよく見回り、早めの発見・防除に努めましょう。

※「BLASTAMによる葉いもち感染好適条件判定結果」は随時更新され、県農業総合研究センターHPの病害虫発生予察情報から確認できます。
(URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/yosatsu.html>)



病害虫発生予察情報

3 田植え後の気象 (左: 大田原アメダス、右: 黒磯アメダス)



前回調査日(5/25)から6/2まで気温が高く推移したことで、生育の遅れが解消されつつある。しかし、それ以降は気温が低く推移した影響から、管内北部の調査区では前年より生育量が少なくなったと考えられる。

(参考) 今後の気象 (関東甲信越地方 1か月予報、6/4 気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	関東甲信越地方	向こう1か月 06/06~07/05	20 (低い) 30 (平均) 50 (高い)
		1週目 06/06~06/12	30 (低い) 50 (平均) 20 (高い)
		2週目 06/13~06/19	20 (低い) 40 (平均) 40 (高い)
		3~4週目 06/20~07/03	10 (低い) 30 (平均) 60 (高い)
降水量	関東甲信越地方	向こう1か月 06/06~07/05	20 (低い) 40 (平均) 40 (高い)
日照時間	関東甲信越地方	向こう1か月 06/06~07/05	40 (低い) 40 (平均) 20 (高い)

向こう1か月の気象予報

- ・ 気温：高い確率 50%
- ・ 降水量：多い確率、平均並の確率 40%
- ・ 日照時間：低い確率、平均並の確率 40%



気温が高く推移すると、無駄な分けつが発生、病害虫の多発が懸念されます。間断かん水を実施して無駄な分けつ発生を抑制することや、ほ場の見回りや病害虫防除の徹底を心がけましょう。



4月~6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。
家族や仲間から、作業員へ「声かけ」(注意喚起)をしましょう。